

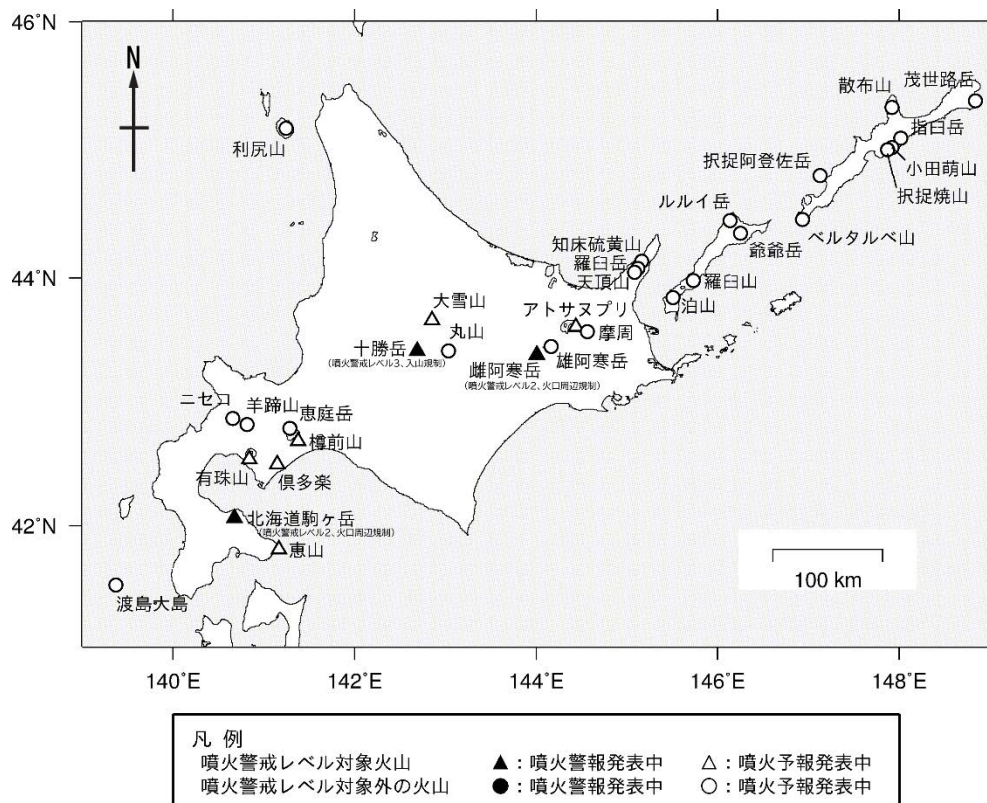
○ 北海道地方の火山活動

管内月間火山概況（令和8年9月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（令和8年10月2日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	十勝岳
	レベル2 （火口周辺規制）	雌阿寒岳、北海道駒ヶ岳
噴火予報	レベル1 （活火山であることに 留意）	アトサヌプリ、大雪山、樽前山、倶多楽、有珠山、恵山
	活火山であることに留 意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻 山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、 指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、 ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所及び機動的な調査観測・解析グループ（北海道大学、東京大学、防災科学技術研究所）のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項（9月1日～30日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。十勝岳では、9月12日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。また、北海道駒ヶ岳では、10月2日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。その他の火山の予報警報事項に変更はありません。

アトサヌプリ〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

雌阿寒岳〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

3月16日以降、噴火は観測されていません。

ポンマチネシリ火口付近では、2025年9月12日の火山性微動の発生以降、同火口方向上がりの傾斜変動が継続しましたが、5月以降は火口方向下がりの変動に転じ、6月以降は火山性地震も概ね少なく経過しています。ただし、8月以降は時折わずかな傾斜変動や地震のやや増加が認められます。2025年9月以降、活発に推移していたポンマチネシリ96-1火口の噴煙活動は、5月頃以降、低下が認められていますが、引き続きやや活発な状態が続いています。

火山活動の活発な状態が続いており、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

大雪山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十勝岳〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕 ←9月12日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引上げ

8月7日以降、噴火は観測されていません。

62-2火口付近では、ここ数年にわたり噴煙・噴気が多く、高感度の監視カメラで発光現象が時々観測されるなど、活発な熱活動が続いています。3月以降、山体付近のやや深部の膨張を示す地殻変動が継続する中、62-2火口付近及びその周辺の地震活動のやや活発化、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加、62-2火口付近の熱活動のさらなる高まりが観測され、7月下旬から8月上旬にかけては62-2火口付近からごく小規模な噴火が複数回発生しています。

このような中、8月中旬から9月中旬にかけては、山体付近を震源とする振幅の大きな火山性地震の増加がみられ、火山活動がより高まった状態となっています。

62-2火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

恵庭岳〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

倶多楽〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

羊蹄山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

ニセコ〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

北海道駒ヶ岳〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕 ←10月2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ

23日以降、山頂火口原浅部を震源とする地震がやや増加するなど地震活動に高まりがみられ、26日からは山頂火口原方向が上がる傾斜変動が認められました。また、10月2日（期間外）には地震回数が明瞭に増加し、傾斜変動量の増大も観測されました。10月3日（期間外）には地震回数が減少し、傾斜変動も鈍化しましたが、引き続き緩やかな変動が継続しています。

火山活動が高まっており、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね4 kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

恵山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

山頂火口原付近では、近年、GNSS 繰り返し観測で浅部のごくわずかな膨張を示すと考えられる変化がみられており、一時的な地震増加が時折認められていますが、今期間は低調に経過しました。各火口の噴気活動など熱活動は低調に推移しています。

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。